

うさぎの耳

聴くことは社会貢献の第一歩！

第70号（2022年10月1日）

福津市社会福祉協議会内

◇ 福津市、社協、包括支援センター等からのお知らせ

◇ 会からのお知らせ

- 1 9月の定例会は、20日（火）13時30分から。県社協主催のきずなフェスティバルでの講演のビデオ研修（「地域の防災力を高めるため」後編）をしました。
その後、避難所体験者2名の方から、経験談をお聞きました。
- 2 ふれあいコール関連：8月は6件でした。9月は0件でした。
- 3 癒しのカフェ9月8人が参加しました。10月は7日です。傾聴カフェは気軽にお話をして頂く場です。これまで参加されていない方も来ていただき、四方山話に花を咲かせましょう。
- 4 イオン黄色いレシートキャンペーン、毎月11日に行われています。レシートをボックスに入れて資金を集めましょう。
- 5 傾聴研修会を10月定例会（10：00から16：00）時に予定しています。福津市広報誌に掲載し、チラシも作成・配布しました。会員増に結びつけましょう。

◇ 会員の広場

地域の防災力を高めるために（講演会要旨） 山崎 正弘 会員

令和3年度のふくおかきずなフェスティバルで表記の講演がありました。防災力と言えは直ぐに行政による支援（公助）を思い浮かべますが、限られた職員に全面的に頼るのは無理があります。主体は、各住民であり（自助）、それをどのように具体的に構築するかが課題になります。

ただ、自助が基本であるとは言えそこには限界があります。そこで地域で守る（共助）態勢作りが大切です。そのためには、日頃から地域の住民同士が「顔が見える関係」「顔見知りの」「見守り活動」を常態化させることが重要になります。その為にことさらこの関係を作るのではなく、例えば町内会の草刈り・清掃や分別収集日には努めて参加して、気軽にお互いに声を掛けられるようにしておくことが必要です。

このような雰囲気醸成しておけば、地域の全ての人がそこで暮らしやすい事を実感し、それが即ち災害に強い町作りに結びつき、ひいては行政、学校、病院等の公共施設とのネットワークが広がり、公助、共助、自助が一体的なものになるのでしょうか。ごく最近の台風14号接近で、市が開設した避難所の利用は、最も身近な例です。

避難所を経験しました。 太田 俊子 会員

避難所を2回経験しました。1回目は令和2年9月の台風10号の時。小学6年の孫と2人で。2回目は先日9月18日の台風14号の時。家族は家に残ったのだが、私は息子に送って貰い1人で避難した。2回ともカメリアホールにお世話になった。近くの小学校体育館も避難所として開設されたが、文化サークルで行き慣れていた施設を選んだので、暴風の怖さも軽減された。

平成29年7月の九州北部豪雨の直後、家族で災害地を見て回り、穏やかだった山川も村落もすさまじい破壊力により、一変していた。防災減災を意識するきっかけとなり学習会にも参加したりもした。勉強になったのは、避難所の利用についてのルールだった。「早めに避難を！！」と促されても勝手に入所は出来ず、行政からの「避難所開設」の案内により私たちは利用を開始できるのだった。

「命を守る行動を！！」と言われてもそれぞれの事情や考え方がある。それでも避難所開設があったならば一度経験することも良いのでは。私は台風の被害もなく、避難所で一晚中お世話をしてくださった市の関係者の方に感謝をしながら家路についた。今回の手荷物の多さに反省しながら。

風速70メートルって？ 大久保 三保子 会員

市より高齢者避難勧告が流れ、テレビからは進路と被害の現状と風速70メートルの情報。我が家は、晴天の時は小呂島、夜は津屋崎のイカ釣りの漁り火、花火も見える高台です。ので怖くなり、夕方避難を決めタクシーで中央公民館へ。

一階で受付があり、「避難におけるマナーとルール」、簡易ベッドと毛布、水と夜食の一食分が渡されたが、軽食持参の私は必要なく、夜具を持ち2階の工芸室へ。

ご夫婦、親娘、姉妹、単身者は3名でした。消灯は22時、起床は7時。歩きが不自由な人の夜具の返却の手伝いなど、思いやりで皆さん行動されていました。

係からは、退所は自由ですが、吹き返しが来そうだから、夕方まで公民館開放の知らせがありました。

傾聴ボランティアで学べた私達は、自然体で他人様の会話が聴けることと、とっさの時には筆談もと、ペンを握っている自分がいました。コロナが収束したら、1日も早く施設や個人宅への傾聴を楽しみにしています。

台風時お世話様になりました市の関係者の方々、お疲れ様でした、有り難うございました、の気持です。

